

ふる里を再発見

思いが加わる

昨年の3月に開催された
フリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会
大会の開催に向け、この町にある文化、歴史、自然、
伝統、史跡、名所、偉人などを紹介し、
猪苗代を世界にアピールしよう
町民のおもてなしの心を示そう
そう考え、動き出した人たちがいた

構想から約1年半、それぞれの思いが形になった時
思いがけない発見もあった
11月に完成した「いなわしろふる里かるた」が
この町に残したものを検証する



かるたで町をアピール

町教育委員会が主催する高齢者向け講座「生き粋セミナー」は、町内の各老人クラブから推薦を受けた人たちが参加する講座。

次の事業ではどんなことに取り組みようかと、当時の公民館職員や社会教育指導員たちが集まった会議の席上で、緑小学校のかるたづくりが話題になった。

ちょうどフリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会を翌年に控え、町全体で大会を盛り上げていくとする機運が高まっていた時。かるたを作って、町の文化、歴史、自然、伝統、史跡、名所、偉人などを紹介することができたら―。

第1回目の生き粋セミナーで、参加者に趣旨を説明したところ、それは素晴らしい、世界選手権のために一役買おうと多くの賛同を得ることができた。

かるたの作製に当たり、誰を講師



かるた(加留多、歌留多、骨牌など複数の当て字がある)は、絵札を使う競技の一種。ポルトガル語の「carta」を語源とし、日本に伝わった当初は主にトランプを指していた。現在、単に「かるた」と称する場合はいろはかるたを指すことが多い。百人一首一別名「歌がるた」。花札一別名「花がるた」。

に迎えるかが議論された。町の歴史や文化など、いろいろなことに精通して、それをかるた作りに生かし、参加者に指導できる人。公民館職員が白羽の矢を立てたのは、いなわしろ民話の会の鈴木清孝会長だった。

―おもてなしの心で選手やお客さんを迎え、猪苗代町を紹介するには、わたしたち町民が地元のことをよく知らないといけない―。

常々そう思っていた鈴木さんと公民館職員の思いが一致し、鈴木さんが講師に決定した。

かるた作りがスタート

2回目のセミナーからは、鈴木さんが講師になり、具体的な取り組みが始まった。

読み札の文言作りは、五七五の俳句調を基本とすることが決定。参加者には、自分の住む地域の紹介したものについて、文言を作成しても

らうことにした。
慣れない俳句調に悪戦苦闘しながら、多くの参加者たちが作り上げた文言。そこには地域への愛情、思いや誇りが込められていた。

読み札がある程度完成すると、今度は絵札の作成が始まった。

絵札のデッサンは、参加者の渡辺ミエさんが担当することになった。趣味で絵手紙を描いていた渡辺さんは、実際にその場所を訪れたり、イメージを膨らませたりしながら、あたたかいタッチでデッサンを完成させた。

渡辺さんが色まで全部仕上げるのでは負担が大きすぎる。そう思った鈴木さんは、以前訪れた猪苗代高校の文化祭で見た、美術部員の展示を思い出した。

猪苗代高校に連絡し、美術部員の協力を依頼すると、美術部顧問の関本和志(わづ)教諭と部員たちが、地域の役に立てるならと快く協力してくれることになった。

部員たちは、交代しながら色付けに参加し、すべての作品にきれいな色を付けてくれた。

ふる里かるた製品化へ

こうして出来上がった原画は20年10月、公民館まつりで展示され、多くの町民の目に触れることになった。

「あたたかい感じがいいね」「これは製品にならないの」と評判は上々だった。

世界選手権猪苗代大会直前の1月末、小松山生涯学習課長、鈴木さんとセミナー担当者の堀社会教育指導員が完成報告のため町役場を訪れた。津金町長に完成の報告をすると「素晴らしいものができた。ぜひ製品にしたいのではありませんか」との提案があり、土屋教育長も「地域を知るといふ教育的な意義もある。ぜひ学校の子どもたちにも見せてあげたい」と賛成。

世界選手権猪苗代大会の会場に展示されることはなかったが、製品化に向けて準備が進められることになった。

製品化に向け、かるたの内容の見直しが始まった。生き粋セミナーでは、かるたに採用された史跡や名所の現地研修などを実施し、参加者の理解を深めた。

また、学びいなどで古典セミナーの講師を務める鈴木邦子先生に文言の添削を、以前山潟小学校に校長として勤務していた馬場泰先生に絵の添削を依頼し、内容を見ていただいた。

生き粋セミナーの題材という枠を超え、いろいろな人の思いが加わった見事な作品は11月、ついに「いなわしろふる里かるた」の製品版として完成した。

INTERVIEW

皆さんの俳句は芸術作品ではありません
あたたかさにあふれた地域の人たちの
心を伝えるものなのです。



文言(俳句)の添削や生き粋セミナーでかるたの読み方、遊び方の指導を担当

鈴木 邦子先生

もともと町内の閑脇出身のわたしは、教師として猪苗代高等学校に12年間お世話になりました。
そんな縁があって、退職後、公民館の古典セミナーの講師を依頼され、現在までお付き合いさせて頂いています。
短歌や俳句は趣味程度で、皆さんにお見せするようなものではありませんが、少しでも老人クラブの皆さんのお力になればと添削の依頼をお受けしました。
添削に当たっては、最初に作った人の心を、思いを壊さないようにと心がけ、五七五調の基本に近

づける程度にしました。
皆さんの俳句は芸術作品ではありません。あたたかさにあふれた地域の人たちの心を伝えるものなので、一言一句に込められたあたたかさを、できるだけそのままの形で残したかったです。
今回、このような素晴らしいものを作ることに協力し、一助となれたことを、本当にうれしく思います。
まだこのかるたを見たことのない町民の皆さんにも、楽しんでほしいと思います。

Interview



かるたのデッサン(下絵)を担当

渡辺 ミエ さん (白津)

デッサンの話をいただいた時、本当にわたしでいいのかなと思いました。わたしは趣味で絵手紙を作っていた程度でしたから。

皆さんと一緒にわたしも頑張ろうと、ただただ夢中で描きました。皆さんの協力があったことだと思っています。

これからもまだまだ猪苗代のことを知りたいです。死ぬまで勉強ですね(笑)。

Interview



俳句を担当し、2作品が採用

横沢 都子 さん (釜井)

若いころ東京に行っていたわたしには、猪苗代のことでも知らないことがたくさんありました。この講座に参加したことで、町内のいろいろな場所や歴史について勉強することができて、本当に良かったと思います。

採用された俳句

- ・見祢の大石 噴火の大きさ 物語る
- ・結び仲良 いついつまでも おシンの嫁入り

思いを留める

とど

簡単に俳句は浮かばない、絵だって簡単には描けない色を付けることもそうだし、みんなが頑張ってる、かるたの中に思いを詰め込んだそれをやり遂げた時、今まで見えていなかったものが見えてきた。きつとそれが大切なもの、かるたづくりに携わった皆さんの話を聞いた。



完成した「いなわしろふる里かるた」を取り、感想を話し合う栗原さんと小林さん

かるたの作製に参加してくれた皆さんは、何を感じ、どんな思いでかるた作りに取り組んだのか。感想や苦労話などを聞きました。

猪苗代高等学校美術部顧問 関本和志教諭

美術部員みんなが交代で色付けに参加してくれましたが、中心メンバーとして頑張ってくれたのが栗原美由紀さん、小林文さんと田中花奈さんです。
かるたはきれいに色が出ていて、美術部員として恥ずかしくない仕上がりになって良かったです。

INTERVIEW



水彩画で淡いタッチの絵が得意という栗原さん

猪苗代高等学校美術部 栗原 美由紀さん(3年)

かるたの原画を見た時にあたたかい感じの絵だと思いました。もともとわたし自身がそういうタッチの絵が得意なので、原画のイメージどおり、あたたかい感じに塗るようにしました。

観光科のわたしは、授業で町の名所や史跡などを見学していたので、身近に感じる風景もあって楽しく塗れました。こうして完成品を見ると、本当にできたんだなという達成感があります。

町の自然、歴史や名所などにちなんで、お年寄りが作った俳句。その俳句と絵が一緒になっているこのかるたは、いろいろな人が力を合わせ、団結して作った作品です。そう考えると、気持ちまであたたかくなります。
猪苗代に住んでいる人にもまだまだ知られていない場所がたくさん

んあります。このかるたでそういうところを知ってもらえたらうれしいです。

猪苗代高等学校美術部 小林 文さん(2年)

「普段わたしが描いているアクリル画や油絵とは違うものですが、塗り絵をしているようでやりやすかったです。猪苗代にある身近なものを題材にしているので、楽しくできました。
色を塗っているときは、もともと薄かったので、こんなにきれいに色が出ていてとは思いませんでした。

自分たちが色を付けたものが、お年寄りが努力して作った俳句と一緒に製品になり、お手伝いできたんだと思うとうれしいです。立派な完成品ができたのを見て、驚きと喜びを感じています。



アクリル画や油絵など重厚なタッチが得意の小林さん



かるたを取る人の手と手が重なるように
絵と俳句が重なって、かるたが生まれた
このかるたには、いろいろな人の思いが重なっている

特集 ふる里を再発見 終わり

町民と町と一緒に何かをしようと
考え、動き出す。協働のまちづく
りの答えが見えた。

きっかけは与えられたものだった
かもしれない。しかし、この取り組
みを成功させようと自ら考え、動き、
一生懸命に取り組んで、かるたを完
成させたのは紛れもなく町民の皆さ
んの力。

町民と町と一緒に何かをしようと
考え、動き出す。協働のまちづく
りの答えが見えた。

今回の町の魅力について勉強し、
再発見した皆さんは、一人一人が立
派な観光ガイド。自信と誇りを持つ
て、いろいろな機会に町の魅力をPR
してほしい。

今回の町の魅力について勉強し、
再発見した皆さんは、一人一人が立
派な観光ガイド。自信と誇りを持つ
て、いろいろな機会に町の魅力をPR
してほしい。

今回の町の魅力について勉強し、
再発見した皆さんは、一人一人が立
派な観光ガイド。自信と誇りを持つ
て、いろいろな機会に町の魅力をPR
してほしい。

取材を終えて

多くの人が協力して完成させた
「いなわしろふる里かるた」。

参加した皆さんが地域を見直し、
再発見した文化、歴史、自然、伝統
史跡、名所、偉人などは町の財産で
あり、それらを網羅したかるたもま
た町の財産になった。

この活動に取り組む中で、皆さん
が発見したのは、それだけではない。
自分の心の中にあつた、地域への愛
着や古里への誇りという気持ちも再
発見したのではないだろうか。

自分の住む町をよく知ることは、
町に愛着を持つこと、誇りを持つこ
とにつながる。町に誇りが持てれば、
それを誰かに伝えたいくなる。

今回の町の魅力について勉強し、
再発見した皆さんは、一人一人が立
派な観光ガイド。自信と誇りを持つ
て、いろいろな機会に町の魅力をPR
してほしい。

多くの思い

多くの人の思いが重なり、
かるた(加留多)が出来上がった
かるたを作ることで、町の魅力を再発見した
発見した魅力は、誰かに伝えたいくなる
多くの人に伝えてほしい
あなたが発見した、この町の素晴らしさを。

発端は生き粋セミナーの題材で
あつた訳ですが、そこにかかわつた
町民の皆さんが「世界選手権猪苗代
大会に向けて、世界に猪苗代をPR
したい」と一生懸命に地域おこしに
取り組んでくれました。
その思いこそ、これからのまちづ
くりを進めていく上で重要なのでは
ないかと思ひます。
老人クラブの皆さんは、俳句が採
用された人もされなかつた人も、同
じように頑張つて取り組んでくれま
した。
色付けをしてくれた猪苗代高等学
校美術部の皆さんも、俳句に取り組
んでいる老人クラブの皆さんのた
め、また、地域のためにと創作の時

皆さんの思いが結集した「いなわ
しろふる里かるた」は、文化、歴史、
自然、伝統、史跡、名所、偉人など、
町の素晴らしさを存分に引き出して
くれた作品です。
かるたの中には、町民の皆さんで
も知らなかつたことがあるかもしれ
ません。これを機会に、わたしたち
の住む町について、もっと良く知っ
てもらふことができれば幸いです。
学校の子どもたちにも、このかる
たを使って町のことを良く知っても
らい、町をもっともっと好きになつ
てほしいと思ひます。
かるたは学校などに配布したほか、
ふるさと歴史館、学びいなの展示
しています。ぜひ一度手に取ってご
覧ください。



生き粋セミナー最終回を受講する参加者の皆さん。
これだけ多くの人が町について学び、町の魅力を
再発見した。



INTERVIEW

猪苗代町役場 生涯学習課長

小桧山 勲

今回の「いなわしろふる里かるた」
の作製に当たり、本当に多くの皆さ
んにご協力をいただきました。この
場を借りてお礼を申し上げます。

間を割いて頑張つてくれました。
かるたに出てくる名所、旧跡を巡
り、理解を深め、もっとこの町のこ
とを知ってほしい。鈴木清孝さんは、
あふれんばかりの情熱で講師を務め
てくれました。
添削指導に当たつた鈴木邦子先
生、馬場泰先生も、同じ思いで頑張つ
てくれたのではないかと思います。
このかるたの作製に参加してくれ
た皆さんは、猪苗代の魅力を再発見
し、もっとこの町が好きになったの
ではないでしょうか。今後は、一人
一人がそれを生かし、町の魅力を町
内外にPRしてほしいと思ひます。